

# 誇れる「まち」

**◎市民検討会議、議会、市役所行政の三者で条例の議論をしていますが、理念の違いをどう調整しますか。また、職員などのようにこの条例を根付かせていきますか？**

**▲**市民、議会、行政がそれぞれ考えて検討することが必要であり、さらに三者による議論を通じて、条例をつくりあげる過程と結果こそが重要です。率直に意見を交換し、あるべき条例の姿を見いだしていく必要があります。また、条例の実効性を高めるには、まず、市役所のすべての職員が条例の内容を十分に理解することが必要です。市役所行政としての条例検討では、職員から広く意見を聞くこととしています。

**◎市民のみなさんの自治に基づくとまちづくりの原則・ノウハウを定める条例のついで。**

**▲**市民のみなさんの生活交通のあり方を話し合う検討委員会で、現在の路線バスの問題や高齢の方の自動車運転の現状など、幅広く議論しています。

**◎路線バスが不便な地域があり、地域のみなさんの生活に便利なコミュニティバスを走らせることが望まれています。しかし、「コミュニティバス」の導入には、みなさんの生活や公共交通への要望を十分に調べる必要があります。こうした取組みはしていますか？**

**▲**市民のみなさんの生活交通のあり方を話し合う検討委員会で、現在の路線バスの問題や高齢の方の自動車運転の現状など、幅広く議論しています。

**◎三田市の農業に夢をー**

**◎**農業の現状が苦しい今、市の農業施策は農業者の立場に立ち、農業に「夢」を与えることができればよいと考えます。市長はどのように考えていますか？

**▲**三田市農業の状況は、「農業者の世代交代、農地の保全、食の安全安心」など、課題が山積みです。しかし、三田の農業を守り、活かすには地産地消をさらに拡大することが重要です。そのためJ・兵庫六甲・兵庫県と「農業戦略会議」を立ち上げました。今年度には、就農を希望する方への支援を実施する予定です。また、身近な取組みとして、「三田米」の消費拡大のため、ロコモークの製作や米粉の活用などを進めます。

**※地元で採れた農産物を地元で消費すること。**



自治会が運行するコミュニティバス（丹波市鴨庄自治会）

# 議員の質問

議員は、議会の本会議で、市政についての疑問点や将来の方針を幅広く質問します。

3月定例会では、10人の議員が質問にたちました。

# 住み続けたい「まち」

## 三田市の未来像は？

**◎**ニュータウンがある都市の宿命である急速な高齢化・少子化のように活力ある三田を維持していきますか？

**▲**高齢化がすすむことで、暮らしやすさを求めて人口が都心回帰しています。しかし、三田市でも、ずっと三田に住み続けていたたくこと、そして新たに三田に移り住んでいただくための施策を積極的に進めなくてはなりません。

**◎**ニュータウンがある都市の宿命である急速な高齢化・少子化のように活力ある三田を維持していきますか？

**▲**高齢化がすすむことで、暮らしやすさを求めて人口が都心回帰しています。しかし、三田市でも、ずっと三田に住み続けていたたくこと、そして新たに三田に移り住んでいただくための施策を積極的に進めなくてはなりません。

**◎**ニュータウンがある都市の宿命である急速な高齢化・少子化のように活力ある三田を維持していきますか？

**▲**高齢化がすすむことで、暮らしやすさを求めて人口が都心回帰しています。しかし、三田市でも、ずっと三田に住み続けていたたくこと、そして新たに三田に移り住んでいただくための施策を積極的に進めなくてはなりません。



5月の三田

## 効率的なごみ収集体制を確立すべき！

**◎**市のコスト削減のため、現在の市の職員が行っているクリーンセンター・環境センターの収集業務を民間委託することが必要です。今後の取組みは？

**▲**市の職員が直接収集を担当しているのは、収集効率の悪い郡部や旧市街地です。ニュータウン地区は民間に収集を委託して

**◎**市のコスト削減のため、現在の市の職員が行っているクリーンセンター・環境センターの収集業務を民間委託することが必要です。今後の取組みは？

**▲**市の職員が直接収集を担当しているのは、収集効率の悪い郡部や旧市街地です。ニュータウン地区は民間に収集を委託して

**◎**市のコスト削減のため、現在の市の職員が行っているクリーンセンター・環境センターの収集業務を民間委託することが必要です。今後の取組みは？

**▲**市の職員が直接収集を担当しているのは、収集効率の悪い郡部や旧市街地です。ニュータウン地区は民間に収集を委託して

# 子どもと安心して暮らせる「まち」

## 子どもたちの命を救うワクチン

**◎**乳幼児に多い細菌性髄膜炎（すいまく）炎の予防に効果が高い「プロクチン」の接種費用を市が助成してはどうか？

**▲**プロクチンは、乳幼児の命を守り、すこやかな育ちに役立つと考えています。三田市では、今年度からワクチン接種の費用を助成する予定です。

**◎**乳幼児に多い細菌性髄膜炎（すいまく）炎の予防に効果が高い「プロクチン」の接種費用を市が助成してはどうか？

**▲**プロクチンは、乳幼児の命を守り、すこやかな育ちに役立つと考えています。三田市では、今年度からワクチン接種の費用を助成する予定です。

**◎**乳幼児に多い細菌性髄膜炎（すいまく）炎の予防に効果が高い「プロクチン」の接種費用を市が助成してはどうか？

**▲**プロクチンは、乳幼児の命を守り、すこやかな育ちに役立つと考えています。三田市では、今年度からワクチン接種の費用を助成する予定です。

**◎**乳幼児に多い細菌性髄膜炎（すいまく）炎の予防に効果が高い「プロクチン」の接種費用を市が助成してはどうか？

**▲**プロクチンは、乳幼児の命を守り、すこやかな育ちに役立つと考えています。三田市では、今年度からワクチン接種の費用を助成する予定です。

**◎**乳幼児に多い細菌性髄膜炎（すいまく）炎の予防に効果が高い「プロクチン」の接種費用を市が助成してはどうか？

**▲**プロクチンは、乳幼児の命を守り、すこやかな育ちに役立つと考えています。三田市では、今年度からワクチン接種の費用を助成する予定です。

**◎**乳幼児に多い細菌性髄膜炎（すいまく）炎の予防に効果が高い「プロクチン」の接種費用を市が助成してはどうか？

**▲**プロクチンは、乳幼児の命を守り、すこやかな育ちに役立つと考えています。三田市では、今年度からワクチン接種の費用を助成する予定です。

質問議員（質問順）		
家代岡 桂子（創世会）	田中 一良（新政みらい）	美藤 和広（民主党三田）
平野 管子（公明党）	長谷川 美樹（日本共産党）	今北 義明（盟友会）
坂本 三郎（無党派）	笠谷 圭司（創世会）	松岡 信生（公明党）
中田 初美（日本共産党）	※3月定例会時の会派で表示しています。	

**◎**現在、県が行う「子ども多文化共生サポーター」と、市が行う「外国人語学指導員」を必要のある学校に配置して、支援体制の充実と努力しています。支援内容は毎日の学習支援や、日本語指導、母国語で話すことによる生徒の心のケアなどです。平成21年度は、市内の中学生1名がこの制度を利用しました。

**◎**現在、県が行う「子ども多文化共生サポーター」と、市が行う「外国人語学指導員」を必要のある学校に配置して、支援体制の充実と努力しています。支援内容は毎日の学習支援や、日本語指導、母国語で話すことによる生徒の心のケアなどです。平成21年度は、市内の中学生1名がこの制度を利用しました。



**◎**現在、県が行う「子ども多文化共生サポーター」と、市が行う「外国人語学指導員」を必要のある学校に配置して、支援体制の充実と努力しています。支援内容は毎日の学習支援や、日本語指導、母国語で話すことによる生徒の心のケアなどです。平成21年度は、市内の中学生1名がこの制度を利用しました。

**◎**現在、県が行う「子ども多文化共生サポーター」と、市が行う「外国人語学指導員」を必要のある学校に配置して、支援体制の充実と努力しています。支援内容は毎日の学習支援や、日本語指導、母国語で話すことによる生徒の心のケアなどです。平成21年度は、市内の中学生1名がこの制度を利用しました。

**◎**現在、県が行う「子ども多文化共生サポーター」と、市が行う「外国人語学指導員」を必要のある学校に配置して、支援体制の充実と努力しています。支援内容は毎日の学習支援や、日本語指導、母国語で話すことによる生徒の心のケアなどです。平成21年度は、市内の中学生1名がこの制度を利用しました。

**◎**現在、県が行う「子ども多文化共生サポーター」と、市が行う「外国人語学指導員」を必要のある学校に配置して、支援体制の充実と努力しています。支援内容は毎日の学習支援や、日本語指導、母国語で話すことによる生徒の心のケアなどです。平成21年度は、市内の中学生1名がこの制度を利用しました。

**◎**現在、県が行う「子ども多文化共生サポーター」と、市が行う「外国人語学指導員」を必要のある学校に配置して、支援体制の充実と努力しています。支援内容は毎日の学習支援や、日本語指導、母国語で話すことによる生徒の心のケアなどです。平成21年度は、市内の中学生1名がこの制度を利用しました。

**◎**現在、県が行う「子ども多文化共生サポーター」と、市が行う「外国人語学指導員」を必要のある学校に配置して、支援体制の充実と努力しています。支援内容は毎日の学習支援や、日本語指導、母国語で話すことによる生徒の心のケアなどです。平成21年度は、市内の中学生1名がこの制度を利用しました。



川本幸民 (1810 - 1871)